

平成 30 年度 第 4 回練馬区立美術館再整備基本構想策定検討委員会 会議要約

◆開催日時

平成 31 年 3 月 20 日（水）14 時 00 分～16 時 00 分

◆開催場所

練馬区役所本庁舎 19 階 1903 会議室

◆出席者

1 委員

秋元雄史委員長、大谷康子委員、高橋幸次委員、江村健二委員、島田紘一呂委員、
関口登美雄委員、江川誠志委員、須藤麻世委員、前田尚子委員、今田裕子委員
小金井靖（地域文化部長、副委員長）、矢尾板克之（施設整備課長）、
小沼寛幸（文化・生涯学習課長）

2 事務局

文化・生涯学習課施設計画担当係 山西、渡邊
株式会社 丹青研究所

◆会議意見要約

議事 (1)練馬区立美術館における再整備のコンセプト（たたき台）の確認
(2)再整備のコンセプトに基づく施設機能について

【委員】

・美術館のワークショップ「トコトコ美術館」では、子どもへの絵本の読み聞かせを行っており、図書館との連携に活かせる。また、区役所で母子手帳を交付する際に、美術館やトコトコ美術館を案内するなど、情報発信するとよい。

【委員】

・ふるさと文化館では、石神井公園商店街に対して広報の連携を図るなどアートを活かした盛り上がりがある。中村橋と石神井公園をアートでつないだ人の流れができれば、練馬区全体としてアートを発信していくのに良いと思う。
・年間を通じて講義や実技講習が受けられるとよい。また、区外の人でも利用できるようなすれば、区の枠を越えて人が来る流れができる。

【委員】

・美術書は大きくて重たい。図書館の蔵書のデジタル化を行い、パソコンでアクセスできるようにしてほしい。

【委員】

・ふるさと文化館を整備する際、閉架書庫を石神井図書館の閉架書庫として使えないか検討したが、当時は実現しなかった。図書館システムの OPAC に入れば全国から見られるようになる。美術館も図書館と連携すればもっと情報を出せるようになる。

【委員長】

・図書館的なものと美術館のリアルな体験が連動していくと面白い。

【委員】

・美術館の展示ではキャプションに限界があるため、インターネットによる解説の公開も検討すべき。

【委員長】

・文化施設を点ではなく、エリア化するのは大事だと思う。その中で文化イベント等が行われると、一日楽しめるゾーンができる。

【委員】

・美術と音楽も非常に近い関係にある。音響を考慮したミーティングスペースやフリースペースを確保しておく、こうした結びつきが可能となる。

【委員】

・商店街の街路灯にアートを取り入れられないか。また、商店街で美術館の所蔵品を飾る企画も良い。街路灯のデザインを工夫するなどして商店街に足を運ぶきっかけとするほか、商店街の道路が都から区に移管されるため、区と話し合い整備していきたい。

【委員長】

・学生や区内在住の若手作家が、まちなかを活動の場とするなどの可能性はないか。

【委員】

・江古田では、学生が自主的にやっている取り組みが2つほどある。

【委員】

・江古田にはシャッターアートもある。

【委員】

・店内に飾ると、商店を利用せずに自由に鑑賞するのが難しい。ウィンドウに飾り表から見えるアートにするなど、どういうスペースを提供してもらうのか検討が必要。

【委員】

・センスの問題になる。商店街もいろいろな種類・趣味の人がいるので、全体で盛り上げるという感覚、戦略は難しいだろう。

【委員長】

・クオリティのコントロールなど課題はあるが、まちなかで美術に触れあえる場が生まれてくればよいし、また作家にとっても刺激的な発表の場になればよい。

【委員】

・マンホール、タイル、ガードレールなどを活用して、学生にアートをつくってもらい、駅の出口から変っていくとよい。

【委員】

- ・たくさん子どもたちが美術や文化に触れることが大事。美術館に近い学校しか来られないので、巡回美術館があるとよい。また、大人になって専門的なことを学びたいという方はかなりいる。大学と連携した連続講座があるとよい。

【委員】

- ・駅を降りた時に美術のまちだとわかるよう、鉄道とも連携してほしい。芸術性を問わず何を描いても良く、子どもたちの才能をひき出すような場所もつくったほうがよい。
- ・まちの中に音楽があるとよい。企画展のテーマに合わせた音楽を流したり、若い人たちが演奏するなどコラボレーションができたらよい。

【委員】

- ・中村橋駅南口の広場は利用価値がある。

【委員】

- ・創作室を時々借りるが、学芸員実習が入る月は借りられる日が少なくなる。もう少し増やすことはできないか。区内で美術活動の備品が整っている施設は他にはないので、使いたいという希望が多い。

【委員長】

- ・次回は施設の検討に入る。

以上